

名古屋港管理組合議会 令和7年6月  
本会議一般質問概要



令和7年6月定例名古屋港管理組合議会が開かれ、6月11日（水）に一般質問が行われました。質問・答弁の概要は次のとおりです。

○ 桜井秀樹議員（県・民主）

荷役機械等の水素化に向けた対応について

ア 令和7年3月に改定された名古屋港港湾脱炭素化推進計画の変更の経緯とその内容について教えてほしい。

答弁 名古屋港港湾脱炭素化推進計画は、名古屋港港湾脱炭素化推進協議会での議論を踏まえ、達成状況を確認評価し、国の目標見直しや技術革新などの社会情勢の変化が生じた際には、適宜見直しを行うこととなっている。令和7年3月の一部変更では、本協議会の構成員の取組状況を踏まえ、港湾脱炭素化促進事業に6件の新規事業を追加した。主な追加事業は、RTGのハイブリッド化や、本組合が実施する水素燃料電池換装型荷役機械等の導入促進補助金制度である。今後も進捗を確認し、計画の実効性を高め、脱炭素化を推進していく。

イ NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）が採択した名古屋港及び周辺地域における、商用化を見据えた水素供給のインフラの設計・検証について教えてほしい。

答弁 本調査事業は、豊田通商株式会社、太陽日酸株式会社、東邦ガス株式会社が共同で実施するものであり、飛島ふ頭コンテナヤードのRTGを始め、名古屋港及び周辺地域の大型トラックや、フォークリフトなどの動力の水素燃料電池化に対応した、効率的な水素供給方法の確立に向け、水素を充填する供給インフラの設計・検証を行うものである。

ウ 本調査事業に対する名古屋港管理組合の役割について教えてほしい。

答弁 愛知県及びトヨタ自動車株式会社とともに協力者としてこの事業に参画するもので、港湾エリアにおける水素利活用の展開に関する検討のサポートや、港湾関係者との連携が図れるように支援していく。

エ 本調査事業を踏まえた名古屋港管理組合の今後の取組について、教えてほしい。

答弁 コンテナヤードにおける水素燃料電池型R T Gを始めとした港湾荷役機械などの水素活用の社会実装に向けた取組を推進していく。

今後も、愛知県や名古屋市、港湾関係者を始めとする民間企業と連携し、他地域に先駆けて脱炭素化の推進を図り、カーボンニュートラルポートの実現に向けて取り組んでいく。